

ルカによる福音書6章20-26節 「幸いな人、哀れな人」

1A 幸いな人 20-23

1B 貧しい人たち 20

1C 「良い知らせ」の約束

2C 御言葉に恐れ戦く者

3C 後に来て、今ある「神の国」

2B 飢えている人たち 21

1C 無償の恵み

2C 満ち足りる幸い

3B 泣いている人たち 22

1C 罪から来る悲しみ

2C 過ぎ去る涙

4B 憎まれる人たち 23-24

1C 人の子のゆえ 23

2C 天における報い

2A 哀れな人 24-26

1B 富んでいるあなた方 24

1C 求めない心

2C 一時的な慰め

2B 満腹している

1C 恵みの拒否

2C 霊的枯渇

3B 笑っている者

1C 軽蔑する者

2C 世の悲しみ

4B ほめられる人たち

1C 多くの人々

2C 偽預言者

本文

ルカによる福音書 6 章を開いてください。私たちは午後に、ルカ 6 章を 1 節から 45 節までを一節ずつ見ていきます。今朝は、6 章 20-26 節を見ます。「20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話し始められた。「貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。21 今飢えている人たちは幸いです。あなたがたは満ち足りるようになるからです。今泣いている

人たちは幸いです。あなたがたは笑うようになるからです。22 人々があなたがたを憎むとき、人の子のゆえに排除し、ののしり、あなたがたの名を悪しざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。23 その日には躍り上がって喜びなさい。見なさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。彼らの先祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。24 しかし、富んでいるあなたがたは哀れです。あなたがたは慰めをすでに受けているからです。25 今満腹しているあなたがたは哀れです。あなたがたは飢えるようになるからです。今笑っているあなたがたは哀れです。あなたがたは泣き悲しむようになるからです。26 人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの先祖たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。」

イエス様の宣教が、これまでになく進んでいます。かなり広い範囲から、人々がやってきています。イエス様によって癒しを求めている群衆もいますが、大勢の弟子たちの群れもあります(6:17)。その弟子たちにイエス様は話し始められました。私たちは、マタイによる福音書で「山上の説教」あるいは「山上の垂訓」について見ましたが、これは、内容は似ていますが、異なる説教です。17節に「山を下り、平らなところにお立ちになった。」とあるからです。平地の説教、と呼びましょうか。

イエス様は、まるで逆のことを語られているような気がしますね。貧しい人、今飢えている人、そして今泣いている人は、幸いです。さらには、憎まれている時に幸いです、というのです。その一方で、富んでいるあなたがた、今満腹しているあなたがた、今笑っているあなたがたは哀れです。そして、ほめられたら哀れで、偽預言者たちがそうであったと言われます。これは、幸いと哀れというのを反対にしなければいけないのでは？と感じますね。しかし、全くそうではない、このままでいいのだということを感じていきたいと思います。

1A 幸いな人 20-23

初めに、「幸い」ということの定義です。ギリシア語でマカリオスという言葉ですが、これは、「これから幸せになるのではなく、今現在、幸福な姿」を表しています。そこにいる弟子たちに、「あなたがたは幸いな人なのですよ」と宣言しておられるのです。これは驚くべきことです。ここに来ている人々は、必ずしも裕福な人々ではありません。むしろ貧しい人々がここに訪れていたことでしょう。そして、ローマの中に住んでいて、高い税金を支払わされているとか、ローマに対する不満も強かったと思います。それにも拘らず、「あなたがたは幸いです」とイエス様は言い切ってしまうのです。

この世は、「これこれがあれば、幸せになれます」と教えています。しかし今、置かれている状況の中で、それが好ましくないのにもかかわらず、幸いであるということが出来るのが、マカリオスの意味です。

1B 貧しい人たち 20

ある日本人クリスチャン女性の救いの証しを聞きました。彼女は海外青年協力隊として、発展

途上国に派遣されました。そこでの生活は辛く、自分探しだけをしていたのではないか？と思って、落ち込んだそうです。けれども、現地の人たちがかえって慰めてくれたそうです。助けに行っているつもりが、助けられたのです。自分たちは裕福だから、貧しい人たちのためにそれを使わないといけない、助けなければいけない、という考えの前提には、「相手は不幸で、自分たちは幸福だ」ということがありますね。ところが、相手国はそんなに不幸ではないのです。子供たちは、元気に遊んでいるし、むしろ彼らのほうが生き活きしているのです。つまり、持っていないからこそ、人間として生きていくことを実感できているのです。自分の命を実感できているのです。

これが、初めの言葉、「**貧しい人たちは幸いです。**」の背景の意味です。自分には何もないので、神に頼っている状態です。神に頼っているから、その関係の中にある幸せ、マカリオスを享受できています。そのために、状況が悪いと思われる中にも、自分よりもはるかに幸せそうに見えたりします。それは、自分には何もない、良いものがないと分かっている、神に拠り頼むことができているからです。

1C 「良い知らせ」の約束

元々、貧しい人たちに対して良い知らせを伝えるのがキリストであると、イエス様は言われていましたね。ナザレの会堂でイザヤの預言の巻物が渡されて、「4:18 **主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため**」と読まれました。そして、その良い知らせとは、「赦免と解放」であります。負債を追っている人々に、その縄目から解き放つことです。罪の縄目から解き放つ意味があります。自分の人生の中で問題を解決しようとしても、また同じ振り出しに戻っているということってありませんか？実は、まっすぐ歩いているつもりが、出発点に戻っているとか。その歪みは、自分にある罪の性質によってもたらされます。しかし主はそこから解放してくださるのです。

2C 御言葉に恐れ戦く者

そして貧しき者を、イザヤは他の箇所でも次のように預言しています。「66:2 **わたしが目を留める者、それは、貧しい者、霊の砕かれた者、わたしのことばにおののく者だ。**」貧しいとは、物質的に貧しいというよりも、霊の砕かれている者、主のことばにおののく者だということです。物質的に貧しくても、霊が高ぶっている人はたくさんいます。「イエス？そんな人は要らない」とあしらうホームレスの人はたくさんいます。そうではなく、主のことばを聞いて、それを自分のこととして真剣に受けとめている姿です。真剣に受けとめているのは、心が神に拠り頼んでいるからです。

3C 後に来て、今ある「神の国」

そして、約束は、「**神の国はあなたがたのものだからです。**」とされています。ここで大事なものは、もう既に「あなたがたのもの」と言っていることです。ここには、二重の意味があります。たった今、すでに神の国が臨んでいるということ。そして将来に、神の国が到来するということです。イエス様は、「御国が来ますように」と祈りなさいと言われました。これは明らかに、ご自身が栄光と力

をもって地上に戻られて、エルサレムから世界を治めるところの神の国で、将来のことです。けれども、「11:20 わたしが神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。」と言われました。つまり、「既に来たのに、未だ来ていない」のです。

ここに、貧しき者たちの幸いがあります。神の国の先取りをしているということです。確かに将来、目に見える形でイエスを王とする神の国が到来します。けれども、その栄光に満ちた神の国を、霊的にそのすばらしさの一部を既に御霊によって味わっているということです。ここがマカリオスの奥義です。将来のものであるのに、今、その核になる部分、霊的な部分を受け取っているということです。パウロが、コリントの人たちに第二の手紙でこう言いましたね。「Ⅱコリ 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」すべてが新しくなったと言っていますが、この言葉は、黙示録 21 章に出て来ます。つまり、新しい天と新しい地になって、天からのエルサレムが降りてきた時のことです。すべてが新しくなったという、はるか先の将来の約束のように見えながら、実は、御霊によって新しく生まれた時、新しく造られた時にもう既に、信仰の中で体験しているということです。

これはちょうど、次のように言い換えればよいでしょうか。大農場を持っている人の息子がいるとします。「これは、この人の息子。彼がこれらの大農場を受け継ぐ。」と。持ち主の息子ということだけで、それだけに幸いがあるのですが、その関係には、既に大農場を受け継ぐという将来も含まれています。将来、良いことが待っているのだよ、というものだけではなく、今、その父との関係と農場の生活を味わっているのです。

2B 飢えている人たち 21

イエス様は次に、「**今飢えている人たちは幸いです。**」と言われました。

1C 無償の恵み

貧しいから飢えている、という言葉のつながりはとても分かりやすいです。けれども、ここでも物質的に飢えているということではなく、霊的に飢えていることであることは、旧約聖書から分かります。イザヤ書には、こう書いてあります。「55:1-2 ああ、渴いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。なぜ、あなたがたは、食糧にもならないもののために金を払い、腹を満たさないもののために労するのか。わたしによく聞き従い、良いものを食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づく。」主の声を聞くことが、水を飲むことで、また穀物を食べることになります。そして、ここで大事なのは、これらを、ただで、代価を払わないで、飲んで食べなさいと主が語られていることです。しかし、自分でできる、自分には何か良いものがあると思っているものは、自分で支払うことのできるもので、自分を満たそうとします。自分が何かを行って、それで自分を満たそうとします。ところが、全く自分には何もないと知っている者たちは、そのまま真っ直ぐ、主のもと

に来て、その恵みを、ただで食べられる恵みを受けようとするのです。

マグダラのマリアのことを思い出しますが、彼女は七つの悪霊をイエス様から追い出された人です。漁をしていたペテロとは違い、仕事など、何も全くできなかったでしょう。真人間で生きている時の記憶は、イエス様しかいないのです。だから、彼女はイエス様が死なれてから、墓に葬られる時にずっと、それを見守っていました。そして三日目に、初めに甦られたイエス様を見たのはマグダラのマリアです。もうイエス様しかいないのですから。そして、園の墓のところで、イエス様が声をかけられると、「ラボニ！」と叫んで、マリアはイエス様にしがみつきました。彼女は飢えていたのです、イエス様に。

2C 満ち足りる幸い

そして、飢えている人に対するイエス様の約束は、「**満ち足りるようになる**」とあります。これも、将来、イエス様にあずかることによって満ち足りるだけでなく、今も、満ち足りるようになります。パウロはこう言いました。「ピリ 4:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。」イエス様がいるので、どんな境遇でも満ち足りることができました。

3B 泣いている人たち 22

1C 罪から来る悲しみ

そしてイエス様は、「**今泣いている人たちは幸いです。**」と言われました。貧しいから飢えて、飢えて涙が出て来る、というイメージはよく分かりますね。けれども、ここでも霊的なことです。イスラエルの民が罪を犯して、それで悲惨な状態に陥っている時に、主が恵みをもって答えてくださるという約束があります。「イザ 30:19 ああ、シオンの民、エルサレムに住む者。もうあなたは泣くことではない。あなたの叫ぶ声に応え、主は必ず恵みを与え、それを聞くと、あなたに答えてくださる。」先祖たちが、また自分たちが神に対して犯した過ちを悔いて、それで涙を流しています。だから、そうやって泣いていることは幸いなのだよ、と言われているのです。つまり、罪から来ている悲しみです。罪を悔い改めるということは、罪を憎み、それに対する深い悲しみが伴います。

悲しみや苦しきは、私たちには内なる幸い、マカリオスをもたらします。「詩 119:71 苦しみにあったことは私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきてを学びました。」とあります。喜ばしいことや、楽しいことよりも、私たちは苦しみに遭うことによって、イエス様のところに来たのではないのでしょうか？ 悲しみや悲しみの中にこそ、真実の幸い、マカリオスが存在しているのです。人々が真実に生きるその姿を、同じ苦しみを通ったからこそ互いに見ることができますね。

2C 過ぎ去る涙

そして約束は、「**あなたがたは笑うようになるからです。**」であります。詩篇には、「126:3 涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取る。」これは、捕囚の民として、奴隷として涙を流しながら

種を蒔いていたが、今は解放されて、帰還することができ、そして喜びながら刈り取るという意味です。その悲しみを、涙を通ったからこそ、帰還した後の農作業ほど喜びを味わうことができるのではないのでしょうか？同じように、悲しみがあったからこそ、私たちは喜ぶべき祝福を喜んでいることができますね。

そして終わりの日には、涙は完全に拭い取られることが約束されています。「黙 21:4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」罪によって死が入りました。そして死があるので、他のあらゆる苦しみがあります。しかし、死が取り除かれました。したがって、涙もぬぐい取られます。

4B 憎まれる人たち 23-24

1C 人の子のゆえ 23

そしてイエス様は、幸いを、ご自身のゆえに憎まれることで結論付けています。「22 人々があなたがたを憎むとき、人の子のゆえに排除し、ののしり、あなたがたの名を悪しざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。」イエス様に対して、人々はこれらのことをしました。ですから、キリストに従うのであれば、この方のゆえに排除され、罵られ、悪口を言われてしまうというのです。

私たちは、あからさまにこうしたことをされることは、少ないかもしれませんが。けれども、何か悪いことを言われてしまうのではないか、イエス様についていったなら？と恐れるかもしれません。しかし、その時に知っていただきたいのは、イエス様についてきた、というところにある良心は、何物にも代えがたいということです。人が何と思うかというところで動くと、魂がどんどん死んでいってしまいます。しかし、主を恐れて、あることを行わないということであれば、必ずやそこには良心を清く保ったというところある幸いを見出します。

2C 天における報い 24

そして、報いがあります。「23 その日には躍り上がって喜びなさい。見なさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。彼らの先祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。」私たちは、キリストのゆえに苦しみに遭うならば、約束されているのは報いです。苦しみのゆえに信仰が純化され、そして後には、主ご自身が来られて褒美を与えられるのです。「I ペテ 1:6-7 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならぬのですが、試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。」

2A 哀れな人 24-26

ここまでが、幸いな人でした。その対比が、「哀れな人」です。今の日本語の表現でいるならば、「非常に残念」ということになるでしょう。イエス様が非常に残念し、ため息をついておられるのです。

1B 富んでいるあなた方 24

「24 しかし、富んでいるあなたがたは哀れです。あなたがたは慰めをすでに受けているからです。」ここで、「あなたがたは」とイエス様は、直接、語っておられます。初めの四つの幸いを聞いて、「何を言っているのか」と反応している人々に語りかけられたのもしれません。

1C 求めない心

「富んでいる」というのは、自分でいっばいな人のことです。先に、自分には良いものがないから、全く何も持っていないから、神に抛り頼まざるをえないというのが貧しさであることを話しました。ここではその反対です。自分に何かできる、自分には良いところがある、いや、自分には良い所がないと言っても、自分は、自分は、と自分に焦点を当てている時に、それは貧しい状態ではなく、富んだ状態です。イザヤがアハズに、「あなたの神、主に、しるしを求めよ。」と言ったところ、アハズは、「私は求めません。主を試みません。」と言いました(7:11-12)。主を求めるのではなく、自分に関わりたくないという心、これこそが富んでいる人という事が言えるでしょう。

2C 一時的な慰め

そうすると、「あなたがたは慰めをすでに受けているからです。」とあります。これは言い換えると、将来には慰めは用意されていないということです。その富にある慰めだけで、後に来る、神の国にある慰めは残されていないということです。

2B 満腹している

そして主は言われました。25 今満腹しているあなたがたは哀れです。あなたがたは飢えるようになるからです。

1C 恵みの拒否

富んでいるから満腹しています。これは、「私は満たされていますから、神のことは結構です。」ということです。先は神に満ち足りている状態ですが、こちらは自分に満腹している、自分に満ち足りているのです。「私は満足した生活を送っていますから」という人がいますが、実は神なしでそういうことを話しているのであれば、哀れなのです。

2C 霊的枯渇

そして、それをし続けると、魂は枯渇します。飢えた状態になります。ラオディキアの教会がそうになるとイエス様が警告しました。「黙 3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。」富んでいる、豊かになった、足りないものはないというその霊的状态は、実は裸の大様です。それこそが、惨めで、哀れで、貧しく、また盲目になってしまっているのだということです。

3B 笑っている者

1C 軽蔑する者

「今笑っているあなたがたは哀れです。あなたがたは泣き悲しむようになるからです。」ここで笑っているのは、見下していることです。笑って見下しているのです。主に対して貧しくなる、飢える、また涙を流すということが、ばかばかしいと笑っているのです。

2C 世の悲しみ

それに対しては、泣き悲しむことになります。聖書には数多く、一夜にして、楽しみがなくなり、人々が嘆き悲しむ姿が出てきます。(黙示 18:22-23)。世においては、悲しみが与えられたら、それは喜びに代わるものではありません。悲しみはそのまま悲しみであります。滅びに至る悲しみです。そういった人がいるならば、私たちの心は張り裂けんばかりになります。主に立ち返ってほしいと願います。

4B ほめられる人たち

26 人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの先祖たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。

1C 多くの人々

先は、人の子のゆえに憎まれました。ここでは、ほめられています。人々が皆、と言っていることに注目してください。人々の多くがほめているのです。私たちは、多くの人々がどう思っているのかということで行動を決めていることが多いです。しかし、それは哀れなのだと言われています。

2C 偽預言者

そして預言者たちは迫害されても、偽預言者が迫害されなかったのは、人々が聞きたいことを、不遜にも神の御名で語ったからです。自分が迫害を受けたくない、人に良く思われたいということを、勝手に神のみこころだとして語っているのです。それが偽預言者です。

イエス様はこのように語られ、神の国にある幸いを見出している人と、そうではなく外に締め出されている哀れな人と選り分けられました。一つ一つ自問自答してみましょう。自分は果たして、貧しい者なのか？それとも富んだ者なのか？そして、イエス様のことに飢えているか？それとも、どうでもよいと思っているのか？そして、罪に対して涙を流しているか？悲しみを覚えているか？それとも、そうした考え方自体を見下して、見下すような笑みを浮かべているのか？この幸いは、マカリオス、神との関係の中にある幸福です。